

# ユーザーレポート User Report

ゼロ  
0の証明

## 誇り高き「95歳の現役人生」を支えた、 家族の決断

個人

双極性障害、飲酒運転の不安、そして鍵を隠し続ける日々からの解放。空気の綺麗な地方にお住まいのご家族。柿の木が並ぶ美しい風景の中で、一人の男性が95歳という天寿を全うされました。地域のリーダーであり、消防団の隊長も務めたお父様。亡くなる直前まで現役の農家として働き、一度も介護保険を使うことなく、文字通り「一生現役」を買われました。その輝かしい足跡の裏側には、ご家族が長年抱えてきた「知られざる葛藤」と、それを乗り越えるための「愛の決断」がありました。

### ご利用機器

カメラ付き  
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



### 地域のリーダー、そして「双極性障害」との闘い

お父様は非常に多才で、活動的な方でした。90歳を過ぎてもジーンズを粋に穿きこなし、自らスマートフォンを使い、軽トラックや乗用車を駆って柿畑やショップへ出かける。その若々しさは地域の驚きの的でした。しかし、お父様にはもう一つの顔がありました。約30年前から「双極性障害（躁うつ病）」を患っていたのです。病状が「ハイ（躁状態）」になると、エネルギーが溢れる一方で、夜眠れなくなり、その高揚感を紛らわせるようにお酒に手が伸びてしまう。そしてお酒が入った状態で、夜中にふらりと車を走らせてしまうことがありました。

「普段は立派な父だからこそ、誰も正面から止められない」「でも、もし事故を起こしたら、父が築き上げてきた名誉も人生も一瞬ですべて崩れてしまう」

ご家族にとって、お父様の「躁状態」と「飲酒」と「運転」が重なる夜は、恐怖以外の何物でもありませんでした。

### 毎晩の「鍵の隠し合い」という、出口のない迷路

飲酒運転の危険を重く見たご主人は、夜、仕事から帰るとお父様の車の鍵をこっそり回収し、管理するという対策をとっていました。

「飲んだら乗るな」という正論をぶつければ、プライドの高いお父様との間で激しい言い合いになります。昭和の一枚生まれで、地域の顔として生きてきたお父様にとって、子供世代から行動を制限されることは、自分の尊厳を否定されるように感じたのかもしれない。

「鍵を隠しては、文句を言われながら朝に返す」「父を疑い、監視し続けなければならない」そんな毎日は、ご家族の精神を疲弊させていきました。モラルへの訴えかけも、家族の懸命な注意も、病気やアルコールの前では無力に感じられることもありました。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

### 「1台では意味がない」 ——2台同時装着という覚悟

そんな中、奥様がインターネットで見つけたのが、東海電子の「アルコールインターロック」でした。ご主人が下した決断は、「軽トラックと乗用車の2台同時に付ける」ということ。「片方だけに付けても、もう一台に乗ってしまえば意味がない。やるなら徹底的に、父を守るセーフティネットを張るんだ」この決断は、単なる機器の導入ではなく、ご家族が「父を信じ直すため」の投資でもありました。お酒を検知すれば物理的にエンジンがかからない。その「動かぬ証拠」と「物理的な壁」があることで、ご家族は夜、ようやく枕を高くして眠れるようになったのです。ご家族全員が同じように測定するルールを作ったことも、お父様のプライドを守る大きな助けとなりました。



### 病院嫌いの父が、最期に見せた 「奇跡のタイミング」

「一生現役」を地で行くお父様は、大の病院嫌いでもありました。9月頃から食欲が落ち、ご家族が何度も受診を勧めても「行きたくない」と首を縦に振りませんでした。

しかし10月下旬、運命的な出来事が重なります。10月25日、待ちに待ったひ孫様が誕生しました。予定日より3週間も早い誕生でしたが、この「早まり」が奇跡を呼びます。27日、退院してきたばかりのひ孫様とお父様は、自宅で対面することができたのです。95歳と0歳。命のバトンが渡された瞬間でした。

その対面を見届けた安心感からか、あるいは体力の限界だったのか、頑なだったお父様がようやく入院に同意されました。検査の結果は脱水と、長年の疲れが重なった老衰に近い状態でした。

# ユーザーレポート

ゼロ  
0の証明

個人

## 全員集合。 愛に包まれた「10日間のフィナーレ」

入院から1週間ほど経った頃、お父様の容態が急変します。「会わせたい人がいたら、すぐに連絡を」という医師の言葉に、ご家族は奔走しました。東京で働く孫娘も、上司の理解を得て即座にバスに飛び乗りました。その甲斐あって、子供、孫、ひ孫まで、お父様を慕う家族全員が病室に集まり、お父様の顔を見て声をかけることができたのです。「みんな、間に合ったね」あんなに病院を嫌がっていたお父様が、最期は病院という場所のおかげで、家族全員に囲まれて穏やかな時間を過ごすことができました。12月2日、お父様は肺炎のため、眠るように息を引き取られました。



## 守り抜いたからこそ、清々しい別れがある

もし、アルコールインターロックを導入していなかったら。もし、無理な飲酒運転の末に、最期に事故を起こしてしまっていたら。ご家族はこれほど穏やかな気持ちで、お父様を見送ることはできなかったでしょう。「何かあった後で後悔することを考えれば、決して高い買い物ではなかった」奥様のその言葉は、悲劇を未然に防ぎ、父の尊厳を最後まで守り抜いた者の確信に満ちています。お父様が遺されたこの事例は、行政や医療に加えて、「テクノロジーによる物理的な抑止」がいかに家族の絆を救い、穏やかな終末期を支えるかを示しています。「父の尊厳を守りながら、地域の安全も守る」そんな優しい選択肢が、この社会にもっと広がっていくことを願ってやみません。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

## 本事例が示す3つの価値

### ■「返納」の前に行える、新しい選択肢

「免許を返すか、危険を冒すか」という極端な二択ではなく、テクノロジーで安全を補完することで、最期までお父様の「自立」と「ドライバーとしての誇り」を守り抜くことができました。

### ■「病気による衝動」を、責めずに防ぐ

躁状態による抑えられない飲酒の衝動を、家族が言葉で責めるのではなく、システムが静かに、そして確実に遮断。親子間の衝突を減らし、穏やかな関係を保つ「心の緩衝材」となりました。

### ■一点の後悔もない、最高のエンディング

インターロックが守り抜いた「事故ゼロの5ヶ月間」があったからこそ、ご家族は万が一の不安に怯えることなく、最期の瞬間までお父様との大切な時間に集中し、笑顔で送り出すことができました。

東海電子は、お父様の輝かしい一生を深く称えらるとともに、同じ不安を抱えるご家族の「心」を支えるパートナーであり続けます。



### 取材ご協力

家族を守る方法の手段として、  
アルコール・インターロックを導入された  
Mさんご一家



アルコール・インターロック  
社会実装と個人装着を推進する  
特設サイト  
アルコール・インターロック.com  
～飲酒運転加害者をゼロに～



東海電子WEBサイト  
【アルコール・インターロック.com】  
<https://alcohol-interlock.com/>

LINE 公式アカウント

@700xyfip

大切な人の飲酒運転で  
悩まれていたら…  
いつでも LINE で  
ご相談ください!

